

2018年6月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 6月は、「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」としました。3月にワンランク切下げた後、3か月続けて変更なしです。
- 公共投資が災害復旧工事の一巡を主因に減少しているほか、個人消費が依然冴えない動きとなっています。
- もっとも、道北地域の景気が持ち直していることには変わりありません。建設関連では、災害復旧という特需こそ一巡しましたが、工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いています。観光も持ち直しています。この先、道北地域の景気全体が下方トレンドに転じて行くということではないとみています。

■個人消費の動向

- 5月の大型店売上高は、前年を下回りました。これで9か月連続のマイナスです。土日祝の数が昨年に比べて少なかった（昨年11日→本年10日）とか、雨天や気温の低い日が多かったという要因もありますが、それらを除いた実勢でも、依然として弱い状況が続いているとみています。
- 5月の新車登録台数も、小幅ですが前年割れでした。こちらは5か月連続のマイナスです。昨年夏までは大きく伸びていたのですが、このところは伸び悩んでいます。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、除く軽自動車は前年比+1.2%と前年を上回ったのですが、軽自動車が前年を下回りました。これは4月とは逆のパターンです。

■観光の動向

- 観光は、5月のデータは今一つでしたが、実態としては引続き持ち直しているとみています。
- 5月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年を上回り、13か月連続の増加となりました。旭川空港は、国際線が定期便（台湾便）の就航があったことから皆増（前年ゼロ）となりましたが、国内線が28年11月以来18か月ぶりに前年を下回ったため、全体では前年比マイナスとなりました。他の空港は、稚内空港が前年を下回りましたが、女満別空港と紋別空港は前年を上回りました。
- ホテル・旅館宿泊者数は、4か月ぶりに前年を下回りました。また、旭川市内のホテルの客室稼働率は、小幅ですが8か月ぶりに前年水準を下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、ウトロ温泉以外は前年を下回りました。
- 観光関連業者からは、「外国人観光客の入込みは新千歳空港経由などを中心に着実に増加しているものの、書き入れ時であるGWの日並びが昨年比べて悪かったうえ雨天で寒い日が多かったことが、国内（道内）からの客足に影響いた」といった声が聞かれています。

■公共投資の動向

- 5月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負金額は、小幅ながら前年を下回りました。これで5か月連続の前年割れです。年度初来4～5月の累計でも、前年実績を下回っています。昨年度前半に集中した災害復旧工事の発注が一巡し、発注の減少が鮮明になっています。
- もっとも、建設業者の手持ち工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いているようです。

■住宅着工

- 4月の新設住宅着工戸数は、持家が前年比マイナスだった一方、貸家が大幅プラスだったため、全体では、前年を4割近く上回りました。5か月ぶり

の増加です。もっとも、当月の増加は単月の振れの範囲内で、傾向が大きく変わった訳ではないとみています。

■住宅以外の建築物

- このところ減少気味の建築物着工床面積（非居住用）は、3月は4か月ぶりに前年を上回ったのですが、4月は再び前年を下回りました。

■雇用

- 雇用状況は、引き締まった状況が続いています。4月の有効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えました。新規求人数は、稚内、北見、網走では前年を下回ったのですが、旭川で前年を大きく上回ったため、全体でも前年を上回りました。道北の企業は、引続き人手不足の中にあります。

■今後のポイント

- 道北の景気は、先月と比べてあまり大きな変化はありません。統計数字を見る限りは冴えないデータが多いのですが、企業の景況感はさほど悪くはないように窺われます。公共工事の発注が減少している建設業界でも、工事の受注残はまだ多く残っているうえ、新年度予算も災害復旧分が剥落したとはいえ、水準としてはなお高いレベルを維持しているため、足許大きな不安を持っているようには見受けられません。個人消費に関しては、燃料価格の値上がりなどから、消費者の節約志向が強まっているようですが、一方で小売店間の競争の激しさから、既存店の売上が伸び悩んでいる面も大きいと思います。実際、旭川市内では、昨年秋頃から大型店の新規出店が相次いでいます。
- 今後は、①公共工事のボリュームが災害復旧工事といった特需が解消するなかで、建設業者の良好な景況感を持続するのに十分な工事量を維持できるか、

②建築物を含めた民間の設備投資動向、③個人消費の動向（大型店および新車販売）、④夏の本格シーズンを迎える観光の動向、に着目していきたいと考えています。

- また、7月2日に公表する6月短観の結果にも注目したいと思います。

以 上